

書を捨て(ないで)、まちに出よう！

教授 野村豊子

学生・大学院生は大学内で授業を受けるだけではなく、とても積極的に、今、日本の各地域で必要とされている支援に参加しています。

大学の先生たちの指導のもとで卒業論文のテーマとして取り組む学生もあれば、ボランティア活動の一つとして自分の興味や関心を探求し、活躍しています。

その中で、最近の例から3つ紹介しましょう。

一つ目は、東北大震災の復興支援の取り組みの一つとして岩手県宮古市の三陸鉄道にご協力をいただいて走ることが可能となった「三陸鉄道思い出列車」です。地元のボランティアの集まり「もやいの会」が呼び掛



けたもので、50人以上の高齢者の方や、東洋大の事務局の方、院生、福祉や心理の専門職の方等、日本の各地域の方たちが集い、動く列車の中でお正月の思い出に花を咲かせました。

二つ目は、東洋大学と北区が共同して行っている高齢者見守り事業です。この事業では、学生や大学院生が参加し、調査の方法を学び、お祭り等を通して住民の方たちと気持ちを通わせ、地域は異なっても卒業後、様々の人々の願いや思いにこたえる専門職としての基礎を、体験を通して学んでいます。

三つ目は、鎌倉市のある地区の住民ボランティアの活動を卒業研究で行った試みです。とても素晴らしい成果をご協力くださったグループの方たち、ゼミのみんなで振り返る機会を持ち、地域のサロンで自由に意見を交わしました（写真はサロン活動の場所です）。

このように、学生の皆さんの新しい考えや意欲は、大学の中から溢れ出て、地域や社会で暮らす人々とつながっています。人とともに、また、人のために活動することの素晴らしさをぜひ体験してくださることを願っています。

